

「以上で終わり。」と Y 守くんは言った



「永平寺の朝は早い。」

高校の修学旅行で永平寺に泊まった。夜9時には布団に入り、翌朝3時に起きて座禅を組む。座禅を組む前にお寺の紹介ビデオを見たのだが、その冒頭、どっ、どっ、どっ、とお坊さん達が廊下をぞうきんがけしている場面が映し出される。そしてテロップとともに、ナレーションが耳に響いてくるのであった。「永平寺の朝は早い。」



永平寺の朝ほどではないが、今日の朝もずいぶん早かった。集合時間の前には全員がそろっていた。校門に集まった子ども達の会話から「5時に起きました。」「早起きしたので眠いです。」などと、声が漏れ聞こえてくる。しかし、出発式が終わる頃には、これから始まる2日間への期待が眠気を凌駕し、目を輝かせながら身の丈の半分ほどもあろうかという荷物とともに、意気揚々とバスに乗り込んだ。修学旅行が始まった。



学校を出発してから間もなく、用意してきた出し物が始まった。最初はY守くんからだ。

「これから、さむいー発ギャグをします。」

「〇〇〇〇〇」

お～、そのギャグを聞いた途端、車内にはなんとも表現しがたい空気感が漂った。と同時に発生した体感マイナス100度の冷気



に固まり、誰一人なんのリアクションもとれないのである。

さすが“さむい一発ギャグ”である。面目躍如の Y 守くんは、「どうだ。」と言わんばかりに当たりの様子をうかがっている。ようやく我に返り、来たるべき第2の衝撃に備え、こんなこともあろうかと準備していた上着を羽織って身を守ろうとした、その時、Y 守くんは声高々に宣言した。「以上で終わりです。」



真の意味において、『“さむい” “一発”ギャグ』とはまさにこうあるべきだと、一同、感じ入った次第なのである。

旅は、始まったばかりであった。

<次号へ続く>